

イグサの先刈時茎数と先刈後出芽茎の伸長性について

西田伸介・木下猛夫 (熊本県農業研究センター)

Sinsuke NISHIDA and Takeo KINOSHITA : Relationship between Stem Number at Top Clipping and Extensibility of Emergence Stem after Top Clipping of Mat Rush

イグサ栽培において、先刈は一定の高さで先端を切り揃える作業で、群落環境の改善や生育・品質の向上対策として重要な栽培技術である。

本試験では、異なった生育量に対する先刈の影響を解明するため、移植時の苗株の大きさを変化させ、イグサの初期生育量の違いによる先刈後出芽茎の伸長性の差異について検討した。同時に先刈高さによる影響も検討した。

1. 材料及び方法

1) 試験区の構成

先刈時の生育量を変化させるため、イグサの植付け株を小苗 (親茎3本程度)、中苗 (同8本程度)、大苗 (同13本程度) の3段階に調整した。また先刈高さは地上35cm及び45cmの2段階とした。

品種は「しらぬい」を供試し、栽植密度は27.8株/m² (20×18cm)、移植日は1993年12月9日、先刈日は1994年5月17日、収穫日は同年7月12日であった。試験区は10.8m²の2区制としたが、圃場間で地力差が認められた。

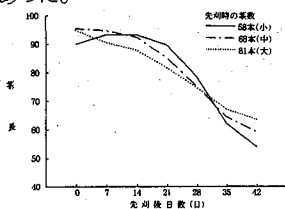
2) 調査方法

出芽時期別伸長性については、先刈前に各区20株の平均茎数に近い3株を供試した。先刈時から1週間ごと7回にわたり各時期の出芽茎にリングを挿入した。収穫後にリング挿入茎の茎長を測定し、各時期別出芽茎の収穫時茎長の平均を算出した。

先刈高さの影響については、収穫時に各区20株をサンプリングし、105cm以上の茎数 (長茎数) を調査した。

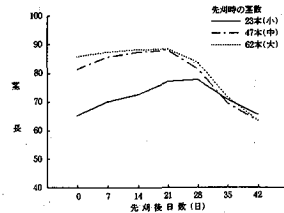
2. 結果及び考察

45cm先刈区についてみると、小苗で移植したイグサ株は、先刈時に茎数 (15cm以上) が58本になっており、先刈後14日頃の出芽茎が最も伸長した。中苗移植株 (先刈時茎数68本) では先刈後7日頃、大苗移植株 (先刈時茎数81本) では先刈日以前の出芽茎が最も伸長した (第1図, 2項移動平均)。また生育の劣った区でも同様な結果を示した (第2図, 同上)。すなわち生育初期から旺盛に推移した株は、最長茎の出芽時期が早く、一方生育の遅れた株は遅い時期に出芽した茎が最長となった。先刈時茎数と出芽茎の伸長の関係は35cm先刈区でも同じような傾向であった。



第1図 先刈後の時期別出芽茎の伸長性

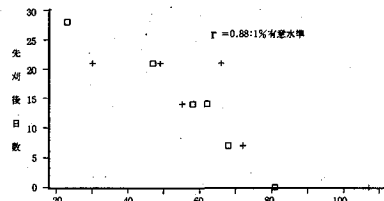
次に各処理を行った全てについて、先刈頃の茎数と平



第2図 先刈後の時期別出芽茎の伸長性

均最長茎の出芽した時期の関係をみた。1株茎数が多いほど最長茎の出芽時期が早くなるという負の相関 ($r = -0.88^{**}$) がみられ (第3図), 先刈頃の茎数により最長茎の出芽時期がある程度類推できることが示唆された。

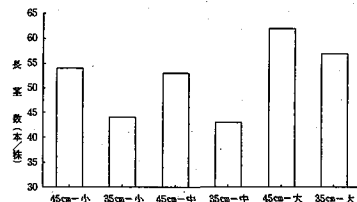
先刈高さによる影響は、35cmでは各生育量で長茎数が減少しており、特に生育量の少ないもので減少程度が大きい傾向にあった。なお先刈高さ及び生育量の多少で長茎数に対し、それぞれ1%及び5%で有意差が認められ



第3図 先刈前茎数と最長茎出芽時期の関係
注) □45cm先刈, +35cm先刈

た (第4図)。これらの結果から先刈頃の生育量によって、先刈高さの影響も異なることが確認された。

以上から、先刈頃の生育程度が以後の出芽茎の伸長に大きく関与し、茎数が早期から繁茂することにより先刈後の生育相に変化が生じ、分けつから伸長への転換が早



第4図 先刈高さによる長茎数の違い
注) 小, 中, 大は第1図及び第2図を参照

まるのではないかと推察される。

また生育の異なった状況下での固定された先刈高さや時期の決定は効果的とはいえず、今後生育量に応じた先刈時期や高さの検討が必要である。